

伊集守政先生日本医師会最高優功賞受賞 大仲良一先生瑞宝双光章受章 名嘉勝男先生旭日双光章受章祝賀会



常任理事 照屋 勉



令和4年12月2日(金)PM7:00より、ダブルツリー by ヒルトン那覇首里城(首里の間)において、伊集守政先生:「日本医師会最高優功賞」受賞、大仲良一先生:「瑞宝双光章」受章、名嘉勝男先生:「旭日双光章」受章の祝賀会が執り行われました。「コロナ禍」ということもあり、参加人数を制限してかなりコンパクトな祝賀会開催となりました。まず、沖縄県医師会会長の安里哲好先生にご挨拶を頂きました。続いて、那覇市医師会会長:友利博朗先生、那覇市医師会副会長:玉井修先生、南部地区医師会会長:湧上民雄先生に、受賞(受章)された先生方のご業績を披露して頂きました。ご来賓を代表して、沖縄県保健医療部長の糸数公様にご祝辞を頂戴いたしました。記念品・花束贈呈の後、受賞(受章)された3名の先生方からご挨拶を

頂きました。ご挨拶の中で、「伊集先生が、那覇市医師会副会長として『新医師会館の建て替え』にご尽力されたという話!(個人的な話で恐縮ですが、小生の女房の両親の『かかりつけ医』をお願いしておりました。以前より本当にお世話になりっぱなしです!。」「大仲先生が、『AMDA(アジア医師連絡協議会)』沖縄支部設立にご尽力され、『世界平和賞』、『沖縄平和賞』など多くの表彰を受けられたという話!(日野原重明先生主催『新老人の会:沖縄支部』世話人会でご一緒させて頂いておりました!。」「名嘉先生が、約40年間の永きに亘り『南部地区医師会』の発展に貢献されたという話!(沖縄県警の嘱託医として、警察行政にも大きく貢献されております。心より感謝申し上げます!。)」などがとても印象的なコメントでした。

そして、乾杯のご発声は、沖縄県医師会代議員会議長の玉城信光先生にお願いいたしました。“巻き”を入れたわけではないのですが、玉城先生は、準備されていた原稿の半分以上カットして、それぞれコンパクトな挨拶でまとめて頂きました。本当にありがとうございました。

しっかりとした感染症対策を取りながら、「祝賀会・懇親会」を恙なく進行することができました。ご協力いただき、心より感謝申し上げます。次回からは、「コロナ禍」が落ち着いたという前提で、さらに盛大な「祝賀会・懇親会」が開催できることを熱望しております。

挨拶

安里哲好沖縄県医師会会長



本日ここに、伊集守政先生 日本医師会最高優功賞受賞、大仲良一先生 瑞宝双光章受章、名嘉勝男先生 旭日双光章受章、祝賀会を開催いたしましたところ、多数の皆様

にご出席頂き、厚くお礼申し上げます。

先生方のご業績は後程詳しくご披露されますが、伊集先生は「医師会活動を通じて地域医療の発展」にご尽力されたご功績により、大仲先生は「地域医療の向上及び海外での医療奉仕活動」にご尽力されたご功績により、名嘉先生は「保健衛生活動及び地域医療の充実・発展」にご尽力されたご功績により、それぞれの賞を受賞されております。

さて、未曾有の事態を引き起こしている新型コロナウイルス感染症は、約3年に亘り国民生活や社会経済活動に甚大な被害をもたらし、今なお先行きが不透明な状況が続いております。とりわけ、沖縄県でも今年の夏、感染者の激増により、医療体制はかつてないほど逼迫し、重症患者がすぐに入院できない事態も起きました。また、急性期病院において、一般外来や救急外来の停止、予定手術の延期、健診・検査を先延ばしせざるを得ない状況にも陥りました。

このような事態は、コロナ収束後の県民の生命と健康にどのような影響を及ぼすか大変危惧するところでもあります。

かかる状況の中、本県は平成12年の二六ショック以降、官民あげて「健康長寿復活」への挑戦が続いております。沖縄県医師会においても、働きざかり世代の健康状態の悪化、早世の深刻な現状に着目し、「65歳未満健康・死亡率改善プロジェクト」に取り組んでおります。令和3年3月には、行政や医療保健、保険者の5者による「沖縄県の働き盛り世代に係る健康づくりの推進に向けた包括的連携に関する協定」を締結いたしました。今後、各団体共通認識の下、働き盛り世代の健康管理や予防のための健康診断の受診率の向上、疾病の早期発見や早期治療、健康増進に向けた取り組みを精力的に推進し、県民が長寿を享受できる社会の実現に向けて取り組んで参ります。

伊集先生、大仲先生、名嘉先生におかれましても、今後ともその卓越したご見識によるご指導、ご助言を賜り、県医師会の会務運営並びに県民が希求する健康長寿社会の復活にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、先生方の今後益々のご健勝とご多幸を祈念して挨拶とさせていただきます。

業績紹介

友利博朗那覇市医師会会長



この度の伊集守政先生 日本医師会最高優功賞受賞に際し、輝かしい数々のご功績の中から主なものを簡単にご紹介させていただきます。

先生は、昭和45年北海道大学医学部を卒業され、昭和48年同大学医学部附属病院第2内科等に勤務され、昭和53年に帰郷。その後、沖縄県立那覇病院や西武門病院勤務を経て、昭和60年12月那覇市内に「伊集内科医院」を開設され、今日まで44年余に亘り地域医療の推進に寄与されております。

先生は、開業以来、内科医として日夜多忙な中、平成8年4月から平成14年3月までの6年間、那覇市医師会理事を務めると共に、平成14年4月から平成22年3月までの8年間、那覇市医師会副会長として、地域医療に関するあらゆる事業を行政との緊密な連携の下に積極的に推進され、市民の健康維持増進・疾病予防の充実に努められました。

また、平成17年4月から8年間務めた沖縄県内科医会会長時代には、理事会の定例化を図るなど執行部の体制強化や事務局体制の強化にご尽力され、各種講演会や勉強会を多数企画する等、生涯研修の充実及び組織の活性化に寄与されました。まさに、先生の卓越した手腕と強力なリーダーシップの賜物と関係者から高い評価を得ております。

その他にも先生は、平成13年老朽化が進む那覇市医師会館の建て替えにおいて、行政や業者との調整に精力を注がれ、医師会活動の拠点となる新会館の落成に大きく貢献された功績は多大であります。くわえて、九州で初めての試みとなった臨床検査業務の民間検査所との提携においては、担当理事として、その手腕を如何なく発揮され、経営の安定化による検査収入は、後に会館建設を資金面で支える等、会員の経費負担軽減に大きく貢献されました。

また、那覇市立那覇中学校、県立那覇商業高校の学校医として11年間の永きに亘り、成長の著しい生徒の健康管理や健康教育を教員との連携の下に務めた他、現在も毎年行われる定期学校健診にも積極的に従事され、公衆衛生の指導啓発、地域保健の向上に努められております。

以上のような伊集守政（いじゅう もりまさ）先生のこれまでの永年に亘るご功績が認められ、この度日本医師会最高優功賞受賞の栄に浴されております。

伊集守政先生のごこれまでのご労苦に対し、心から敬意と感謝を表しますと共に、これからもご健勝でご活躍されますよう祈念いたします。

この度の受賞、誠にめでたうございます。

玉井修那覇市医師会副会長



この度の大仲良一先生瑞宝双光章受章に際し、輝かしい数々のご功績の中から主なものを簡単にご紹介させていただきます。

先生は、昭和43年久留米大学医学部大学院

を修了され、昭和42年より県立日南病院に勤務し、昭和44年には同院の脳神経外科医長を経て、昭和46年に帰郷。その後、泉崎病院に勤務され、昭和48年9月那覇市内に、現在の沖縄セントラル病院の前身となる沖縄中央脳神経外科を開設されました。以来、今日まで50年余に亘り地域医療、保健、福祉の向上にご尽力されました。

19床から始めた病院事業を充実・拡張され、現在は137床の規模で運営されております。その間、一般診療はもとより、特に県内で初めて導入されたGamma Knife治療や高気圧酸素療法では多くの実績をあげておられます。さらに、予防医学にも心血を注がれ、健診や脳ドック等にも取り込まれる等、疾病の早期発見や早期治療、健康の保持増進にも尽力されております。さらに、高齢者が生活圏で安心して暮らせるための環境確保のため、平成23年には介護施設「セントラル・ケアビレッジ ユートピア沖縄」を開設され、医療と介護の連携の推進にも取り組まれております。

また、先生は永年にわたり、保健・医療を通して国際社会貢献にも注力され、平成6年にAMDA（アジア医師連絡協議会）沖縄支部を設立して以降、発展途上国への数多くの医療支援や災害時における緊急援助活動に積極的に取り組まれ、現在も世界各地で発生する自然災害への支援活動を続けておられます。

これら数々の功績が認められ、過去において紺綬褒章（こんじゅほうしょう）、韓国から世界平和大賞（国際文化協会）、沖縄平和賞、沖縄県公衆衛生大会県知事表彰、日本公衆衛生大会会長表彰、公衆衛生事業功労として厚生労働大臣表彰等、多くの表彰を受けられております。

以上のような大仲良一先生のこれまでの永年に亘るご功績が認められ、この度瑞宝双光章受章の栄に浴されております。

大仲良一先生のこれまでのご労苦に対し、心から敬意と感謝を表しますと共に、これからもご健勝でご活躍されますよう祈念いたします。

この度の受賞、誠にめでとうございます。

湧上民雄南部地区医師会長



この度の名嘉勝男先生 旭日双光章受章に際し、輝かしい数々のご功績の中から主なものを簡単にご紹介させていただきます。

先生は、昭和51年フィリピンの首都マニラの University of the east. 医学部を卒業し、翌年日本の医師免許を取得されております。その後、獨協医科大学第一外科助手を経て、昭和55年に帰郷。名嘉病院勤務を経て、昭和56年3月糸満市内に、現在の西崎病院の前身となる糸満クリニックを開設。また、昭和61年には社会福祉法人を設立し、特別養護老人ホーム、障害者支援施設、保育園等を開設されております。以来、今日まで42年余に亘り糸満市を中心とした南部地域の医療、保健、福祉の向上にご尽力されております。

先生は、開業以来、多忙な診療の日々の傍ら、昭和59年南部地区医師会理事就任を皮切りに、平成6年常任理事、平成12年副会長、平成20年には会長に就任され、34年間にわたり、自らの生業に及ぼす甚大なる犠牲を厭わず、南部地区医師会の牽引者として医師会の発展に多大な貢献を果たされました。

また先生は、約40年間の永きに亘り、糸満市立喜屋武小学校や西崎中学校の学校医として、生徒の健康診断、健康管理、健康教育を通して疾病の予防、早期発見並びに事後指導に努め、健康の保持増進を図り、学校教育、保健衛生活動の円滑なる運営に大きく貢献されております。さらに、現在も毎年行われている糸満市

の予防接種担当医として実に40年余、児童生徒の疾病の予防に尽力されております。

その他にも先生は平成17年より沖縄県警察の嘱託医として17年余の永きに亘り、昼夜を問わず警察からの検案要請に応じ死因の早期解明に努めると共に、署員の健康保持増進にも尽力され、警察行政の発展に大きく貢献されております。

以上のような名嘉勝男先生のこれまでの永年に亘るご功績が認められ、この度旭日双光章受章の栄に浴されております。

名嘉勝男先生のご労苦に対し、心から敬意と感謝を表しますと共に、これからもご健勝でご活躍されますよう祈念いたします。

この度の受賞、誠にめでとうございます。

来賓祝辞

糸数公沖縄県保健医療部長



挨拶に先立ちまして、一言申し上げます。

新型コロナウイルス感染の波が繰り返す中、関係各位におかれましては、発熱外来、PCR検査、感染患者対応及びワクチン接種など、現場でご尽力いただいておりますことに、深く敬意を表します。

沖縄県としましては、オミクロン株対応ワクチン接種の促進や検査体制の確保など感染拡大の防止に取り組んでまいりますので、引き続き、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、改めまして、伊集守政先生、日本医師会最高優功賞受賞 大仲良一先生、瑞宝双光章受章 名嘉勝男先生、旭日双光章受章 祝賀会の開催にあたり、御挨拶を申し上げます。

伊集先生、大仲先生、名嘉先生、この度の受章、誠にめでとうございます。心からお喜び申し上げます。

先生方の業績については、先ほど詳しくご紹介がございましたので詳細は割愛しますが、伊集先生におかれましては、那覇市医師会検査事

業と民間検査施設との業務提携により、検査精度の向上及び経営安定化並びに職員の質の向上に大きなご貢献をいただきました。

大仲先生におかれましては、那覇市医師会関係団体との連携により、公衆衛生事業の普及・促進に大きくご尽力されました。

名嘉先生におかれましては、南部地区医師会の役員を三十年以上勤め、地域住民の医療・保健・福祉の向上を狙いとする医師会活動の発展強化に大きく寄与されました。

3名の先生方におかれましては、本県の地域医療の向上に多大な御貢献をいただき、その御労苦に対して敬意を表すとともに、この場をお借りして、心から感謝申し上げます。

今後とも県民の健康増進のため御活躍いただくとともに、これまで培ってこられた豊かな経験を生かして、後進の育成にも御尽力いただきますようお願いいたします。

さて、県では広範かつ継続的な医療の提供が必要な5疾病、5事業、在宅医療の充実及び医療従事者の養成・確保などに関する施策を定めた第7次沖縄県医療計画を推進し、地域医療、連携体制の確保に取り組むとともに、本年3月に策定した沖縄県循環器病対策推進計画を推進することにより、本県の循環器病の実情に応じた施

策を展開し、本県の重要課題の一つである健康長寿復活、健康寿命の延伸に取り組む所存です。

県民ニーズに即した医療サービスを提供するためには、医師会との連携が非常に重要と考えております。

医師会と十分な意見交換を図りながら、これらの業務に取り組んでいきたいと考えておりますので、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

謝辞

伊集守政先生



初めに3年近くに及ぶ新型コロナウイルス感染症に対する沖縄県、沖縄県医師会そして各地区医師会の懸命な取り組みに対して、心から敬意を表したいと思います。

さて本日は、沖縄県医師会並びに会場の先生方には新型コロナの第8波に備えて大変ご多忙の中、私共のためにこのような祝賀会を催して頂き誠に有り難うございます。

先程は安里県医師会会長、友利那覇市医師会長より過分なご紹介を頂き恐縮致しております。



またご来賓の糸数公沖縄県保健医療部長よりご祝辞を賜り有難く感謝申し上げます。

私は去る11月1日、「日本医師会設立75周年記念式典・医学大会」の席で「日本医師会最高優功賞」という名誉ある賞を受賞致しました。身に余る光栄であり、ご推薦頂きました安里沖縄県医師会長はじめ関係者の皆様から御礼を申し上げます。この度の私の受賞の理由は、「医師会活動を通じて地域医療の発展に貢献した」と言う事ですが、先程、友利会長より紹介がありましたので、私からは、思い入れのあったものを2点ばかりお話をし、御礼の挨拶とさせていただきます。

まず平成8年、當山執行部で検査センター担当理事として、医師会館建設に関わりました。新医師会館は東町の現在地で建て替えが進められておりましたが、医師会館の主要な部分を占める付設の検査センターの将来像が見通せない為、設計が一時的に滞っておりましたので、私は担当理事として民間検査所との業務提携案を理事会に提示致しました。当初、40年におよぶ検査センターの自主運営の歴史に終止符を打つ事に、かなりの抵抗がありましたが、様々議論しているうちに、このまま単独での生き残りは困難であるという結論に達し、理事会・総会の承認を得て、株式会社エスアールエルと業務委託契約を締結致しました。その後会館建設は順調に進み工期通り完成致しました。あれから二十数年が経過し、現在的那覇医師会検査部の順調な運営ぶりをみていると当時の執行部の判断は正しかったと考えております。

次に平成14年、友寄執行部で、私共開業医にとって極めて大切な医療連携体制の構築に取り組みました。市内外5カ所の地域医療支援病院含む10カ所の病院に呼びかけて「病診連携委員会」を立ち上げ、比較的短期間に連携体制を確立することが出来ました。この時期、厚労省が政策的に病診の機能分化を進めていた事も追い風となったと思われれます。連携体制の確立後は、患者さんの紹介・逆紹介等がかなりスムーズとなり、また返書率も大幅に向上致しました。

連携システム発足2、3年後の平成18年、全く偶然に、私の右の腎臓に癌が見つかり右腎の部分切除術を受けました。その際、ひと月間休みましたが、長男と豊見城中央病院と浦添総合病院の先生方が全面的にカバーしてくれまして、身をもって病診連携の有難さを体験致しました。現在では、玉井副会長のご尽力で、病気の会員の為の「医業支援システム」というセーフティーネットが確立されております。年に2、3件の運用があると聞いております。

以上、医師会活動でいくつかの仕事をしてまいりましたが、全てはチームによる共同作業であり、従ってこの度の私の受賞も両執行部の先生方、医師会職員皆様そして医療連携に関わった多くの先生方のご支援のお陰であり、皆様方に心から感謝の意を表したいと思っております。また、長い間、私を支えてくれた診療所の従業員の皆さんと私の家内に感謝の意を表します。

最後になりましたが、本日はコロナ禍の大変な時期にこのような祝賀会を催して頂いた県医師会と会場の皆様方に心からの御礼を申し上げますと共に、皆様方の今後益々のご健勝とご多幸を祈念し、お礼の言葉と致します。本日は誠にありがとうございました。



伊集先生表彰状

大仲良一先生



この度はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

令和4年春の叙勲と際しまして、はからずも瑞宝双光章の栄に浴しまして、コロナ禍の中で

皇居へ参上が叶わず、去る5月6日に沖縄県庁において玉城知事から叙勲の伝達を賜った次第でした。

私がこの章を受章できたのは一重に永年にわたる医師会の先生方はじめ、県民の皆様方の心からいただいたご指導、ご鞭撻の賜物と心より感謝いたしている次第でございます。

受章事由の一つとなった国際貢献について、顧みますと幼い頃に大戦を体験し非常に苦しい生活の中で子供時代を過ごしてきたため、世界中の本当に貧しい方々のために、何か役に立てることがないだろうかということで国際的な医療活動に目を向けたわけでございます。

WHOの協力依頼によりインドで行ったポリオの調査では、インド北部のデリーから南端のトリバンドラムまで1ヶ月かけて現状調査を行いました。それが私の国際貢献活動の第一歩であります。ある日ポリオの患者であるチャンドラセカランさんという20代後半の青年が私に診察してほしいと夜中に200キロ先から訪ねてきました。青年を診るとリハビリをすることでまだまだ改善する可能性があったため、沖縄でのリハビリを提案しました。2年後にそれが実現し、言葉が通じない中、職員が非常に密で厳しいリハビリを施し、那覇空港に降り立った時は車椅子だった彼が、帰る時は杖をついて歩けるようになりました。その後インドでかなり名が売れ、私の名前をつけた奨学金制度が作られました。その後、東南アジアの洪水その他地震等の際、職員・医師・看護師を派遣いたしました。その他、ペルーではエイズの保険活動のために、医師・看護師をペルーまで派遣、中近東のニカラグアあたりまでもずっと国際活動を続けてきました。

カンボジアでは、直径10cmぐらいの小さな対人地雷があちらこちらに埋められており、その除去作業に私自身で行いました。このような国際的な活動が今回、ここに結び付いたのではないかと考えています。私もまもなく米寿となります。まだまだ外国へ行って活動できると思っていますが、この歳なので沖縄においてできるだけ多くの外国の貧しい方々のためにもこれから先も努めてまいりたいと思っております。私の父は終戦後、獣医をしております、まだ南部一帯動物が全くいない時代、獣医の仕事ができないと大変困り、近隣の離島を巡り、そこから動物達を連れてきて南部一体に広げました。これは父の一つの実績であると思えます。それをみていた私は当初獣医になるつもりで日大の獣医学部に通っていましたが、アルベルト・シュヴァイツァー博士の書籍集を読み、獣医よりはむしろ人間の医者が良からうということで、医師の道を歩み始めた次第でございました。それが今回の国際医療にも繋がったことだと思っております。アルベルト・シュヴァイツァー博士は、アフリカの奥地で本当に貧しい人たちのために一生過ごされた方、平和賞を受賞された方でございます、その方の足元に及びませんが、頑張ったいという気持ちで今日までたどり着いた次第でございました。

先ほど申しました通り米寿を目前に控えており、果たして医師会活動がどの程度できるかわかりませんが、できる限り先生方や皆さんと一緒に県医師会のご発展のために尽力してまいりたいと思っております。ひとつよろしく願い申しあげましてご挨拶に返させていただきます。ありがとうございました。



大仲先生表彰状

名嘉勝男先生



皆さん、こんばんは。本日は私たちのために、祝賀会を開催してくださいまして、誠にありがとうございます。コロナ禍の中での祝賀会ということで、県医師会の皆さん

方は準備に色々と苦労されたのではないかと思います。そのような中で、豪華な祝賀会ができますことは、大変感謝をしております。令和4年春の叙勲を受賞された先生方、また、その前の年に受賞された先生方、コロナ禍で祝賀会が開催できなかったことを思いますと、大変恐縮しているところでもあります。

私は昭和56年に糸満で開業し、そこからこれまで41年間に亘り地域医療に携わってきたこと、そして南部地区医師会での医師会活動が受賞の対象となったのではないかと考えております。

南部地区医師会の理事16年、副会長8年、会長10年を務めました。私が長く南部地区医師会の役員をやることができたのは、南部には中村義清先生、それから眞境名豊次先生、垣花隆夫先生などの大先輩の先生方のご指導があったからだと思っています。

私が受賞したもう一つは西崎病院をはじめ関連施設の多くの職員の皆さん方のご協力があったこと、それから医師会の先生方の支援があったこと、家族のサポートがあったことなどがありこれまで頑張られてこれたと思っています。今現在も診療の傍ら学校医や産業医、警察の嘱託医などをやっておりますけども、これからも健康の許す限り頑張っていきたいと思っています。本日お集まりいただいた皆様方のこれからのご健勝とご多幸を祈念いたしましてお礼の挨拶といたします。本日はどうもありがとうございました。



名嘉先生表彰状

